



佐土原ロータリークラブ週報



会 長：佐藤 高元 幹 事：太田 忍
 副 会 長：梶田與之助 会報委員長：林 厚雄
 会 計：村岡 博
 事 務 局：〒880-0211 宮崎市佐土原町下田島 11703-18
 TEL：0985-62-7833 FAX：0985-62-7877
 携 帯：090-9596-6114 吉野由里子
 例 会 日：毎週水曜日
 例 会 場：ハイビスカス ゴルフクラブ
 TEL：0985-73-0109

12月20日プログラム予定・・・会員卓話
 12月27日プログラム予定・・・年度末懇親会

第956回 平成18年12月13日（水）

- 本日のプログラム
- 1. 点 鐘
 - 2. ロータリーソング
「奉仕の理想」
 - 3. 会 長 の 時 間
 - 4. 幹 事 報 告
 - 5. 年 次 総 会 鐘
 - 6. 点

以上の二点です。
 ところで、今年の流行語大賞は、誰もが予想した通りでした。オリンピック金メダルに全国の拍手と賞賛をあげ、小さな子供・大人・おじいちゃんおばあちゃんまで、あの演技を真似して得意がりました。
 その対象候補にあがった流行語の中に「品格」という言葉がありました。「品格」という言葉は藤原正彦氏の著書「国家の品格」から話題となり人々の間に広がりました。藤原氏は著書の中で「武士道精神」復活の必要性を訴えています。その「武士道」は、新渡戸稲造のいう武士道の解釈と同じであると述べています。思い返してみますとこの1年随分「品格」の無さが目立ちました。政治の問題、企業の問題、教育の世界までも、「品格」を問われるような問題が、次々に出てきました。それに対して、多くの評論家が改革の意見を述べていますが、なかなか是といった妙策は見当たらないようです。
 新渡戸稲造の著書「武士道」には、「武士の教育において守るべき第一の点は、品性を建にあり」
 《次ページへ続く》

第955回の記録 平成18年12月6日
 ★ 会長の時間 佐藤 高元君
 皆さん今日は、ようやく冬らしくなってきました。今年も激しい冷え込みが続くのでしょうか。いよいよ12月です。これから年末・年始の恒例「行事で正月が過ぎるまで忙しい日々が続きます。お互いに健康に気をつけて頑張りましょう。
 昨日、会長幹事会がありました。今回は事務局員も一緒に大変明るくにぎやかな会になりましたが、二つだけ報告しておきます。
 一つは、2月のIMについての協力をお願いすることです。宮崎南クラブが担当しますが、皆の意見を反映できるような大会の運営を工夫したいと努力されています。今後、具体的な実施計画が各クラブに連絡されますので、ご協力をお願いします。
 期日は2月18日（日）、会場は、ワールドコンベンションセンターです。
 二つ目は、2730地区 富永国俊ガバナーが病気治療のため休養されるので、菊池平パストガバナーが代行されることになるそうです。



※ 会長・幹事会での佐藤会長

と書かれています。つまり、武士の教育において最も重視されるのが品性を高めることと言うわけです。「品性」と「品格」は細かく吟味すれば違いもありますが、人としての行き方の問題として同様な意味に据えておくこととします。

特に、「品」と言う事自体外面的なことだけでなく内面的なことも意味するようになると、奥深く説明がしにくくなってきます。

さらに、品性は高めることも出来ますし、下げることが出来ます。高めれば上品となり、下がった品性は下品となります。「品・品性」についての説明はなかなか困難ですが、武士の骨組みを支えた三本柱 智・仁・勇によって「品・品性」は身に付き高められるものであると本書では説明しています。

「智」についても、確かに今の教育は知に偏りすぎているとも言えます。つまり知識の詰め込み、自己中心主義に傾斜していることがよく指摘されます。「知」は武士道の求める「智」でなければならない。知る事だけではなく生き方を含んでいるというわけです。

さらに「武士道」には、知識でなく品性が、頭脳ではなく霊魂が琢磨啓発の素材として選ばれる時、教師の職業は神聖なる性質を帯びる。「我を産みしは父母である。我を人たらしむるは師である。」教師の品性の重要性を述べています。

政治家も経営者も教育者も、一社会人としても「品性・品格」が問われていることを考える時、ロータリアンとしては、四つのテストによって自らの仕事を評価する心がけが一層望まれることとなります。それがロータリアンの品性を高めていくことになり、社会の「品性」を高めていくことは、ロータリアンの発展につながっていくことは確かです。

★ 幹事報告 太田 忍 君
 ※宮崎西ロータリークラブ
 ※宮崎南ロータリークラブより例会変更及び特別休会届けあり（内容は省略させていただきます）

『友』インターネット速報 No. 259
 財団学友の多くがロータリークラブ入会を希望

R I 会員増強部が行った最近の調査によると、ロータリー財団学友の推定3分の2と現在のプログラム参加者の85%が、ロータリーに入会したいと考えているにもかかわらず、実際にロータリアンになった学友は、全世界の会員の3%にも満たないという結果が出ました。

毎年、10万人もの学友が誕生し、しかもその多くがロータリアンになる資格を十分に備えているにもかかわらず、入会の勧誘はあまり受けていません。調査の回答を寄せたクラブのうち、勧誘を試みたのは半分以下でした。また、学友がロータリアンとなることに最も高い関心を示すのは、プログラム終了直後で、関心を持続させるにはロータリーからの頻繁な連絡が必要であることもわかりました。

ロータリアンになる学友を増やす方法としては、クラブの活動に学友を招くことや学友が集まって新クラブを結成してもらうこと、また、インターアクターをローターアクターに勧誘するなど、ほかのプログラムに関与してもらうことなどがあります。何はともあれ、重要なことは学友にロータリアンになるよう勧めることです。

★ 会員卓話 角井一夫 君
 県立高校教員時代の生徒達とのエピソードや、現在の書道塾での指導の様子、それに対する子供達の生の反応を生き生きと語る角井会員です。



☆木曜4時～10時
 ☆金曜4時～10時
 ☆土曜8時～12時
 4時～7時
 が指導日になっています。

～ MEMO ～

出席状況 第 952 回 平成 18 年 11 月 15 日			
会員数	30名	欠席者数	8名
出席者数	22名	メイクアップ	4名
出席率	73.0%	修正出席率	86.0%

- 言動はこれに照らしてから
- 四つのテスト
 - 1. 真実かどうか
 - 2. みんなに公平か
 - 3. 好意と友情を深めるか
 - 4. みんなのためになるかどうか